

文 / 川岸 徹 (p12~19, 27, 72~73)、志賀佳織 (p20~21, 28~31, 65~67)、
奥 紀栄 (p32~37, 76~77)、岩崎真美子 (p40~47)、飯田敏子 (p92~93)、
三谷弘美 (p22~25, 84~91)、市川礼子 (p48~49, 70~71)

写真 / タナカヨシトモ (p10~15, 32~33)、竹中稔彦 (p24~25)、
竹井俊晴 (p76~77, 79)、中本浩平 (p65, 67)

イラスト / 原子高志 (p16~17, 27, 73)、ミツマリ (p35~36)、あべあつし (p42~47)

© ORF / Ali Shafier



1824年、第九初演のプログラム。
ボン・ベートーヴェンハウス蔵

日本人にとって最も身近なクラシック音楽、ベートーヴェン交響曲第9番。第九は、200年もの間、世界中の人の喝采と涙と祈りを見守ってきた、人類が育んだ遺産である。なぜ、第九はこれほどまでに人の心を揺さぶるのか。その謎を知ってから聴く今年の第九は、新たな響きを感じさせてくれるに違いない。

第九入門

なぜこれほど、心動かされるのか？ ベートーヴェンとは何者か？



ベートーヴェンの散歩道



ベートーヴェンが使っていたピアノ(パスクヴァラティハウス ウィーン)

